

2024年12月3日(火)  
大阪府感染症対策部会

# 大阪市の感染症指定医療機関 としての万博への備え

大阪市立総合医療センター  
感染症内科 部長  
白野 倫徳





# 大阪市立総合医療センターにおける感染症診療

- 第一種・第二種感染症指定医療機関
- 感染対策向上加算1
- 熱帯病治療薬研究班
- 大阪府エイズ診療中核拠点病院
- 大阪市感染対策支援ネットワーク・北部ブロック元幹事病院
- 日本感染症学会認定研修施設
- 日本小児感染症学会認定研修施設
- 感染症専門医7名・うち指導医2名
- 感染管理認定看護師専従1名（有資格者は3名）
- 米国感染管理疫学専門家協会 Certified in Infection Control 2名

# 医療機関におけるパンデミック初期の課題

- 感染症指定医療機関に患者が集中
- 病床不足
- 検査体制が不十分
- 物品不足・試薬不足
- 薬・ワクチンもない状態での診療
- 差別・偏見
- 職員に対するケア
- 臨床情報の提供の負担
- 乱立する臨床研究

制度面の課題

流通体制等の課題

倫理的課題

臨床研究の課題

# 今後起こりうるパンデミック

- やはり、**呼吸器感染症（飛沫または空気感染）**が中心
  - ⇒新型コロナウイルス、新型インフルエンザウイルスなど…
  - ⇒バイオテロでは、肺炭疽なども想定される
  - ⇒麻しん、風しんなど、すでにワクチンがあったり対策が確立されているものは、エンデミックにとどまると考えられる。
- 接触感染、経口感染、性感染、節足動物媒介感染症などは、局所的なエンデミックは起こりうる

# 今後の展望

## ➤システムの効率化

- ⇒REBIND、HER-SYSなどに期待
- ⇒疑似症サーベイランスの活用
- ⇒臨床研究への参加…特殊な薬剤の入手

## ➤備品の備蓄、安定供給

- ⇒国内メーカーとの協力

## ➤クラスター対策支援のネットワーク化

- ⇒現在構築されているネットワークを活用
- 構築されていない地域は、感染対策向上加算などを活用

## ➤コロナ禍において各地域で行われた取り組みを持続可能なものに

- ⇒入院調整、転院、退院支援など